
公共施設の再編に関する意見交換会資料

～適正な公共施設を次世代へ～

平成30年1月

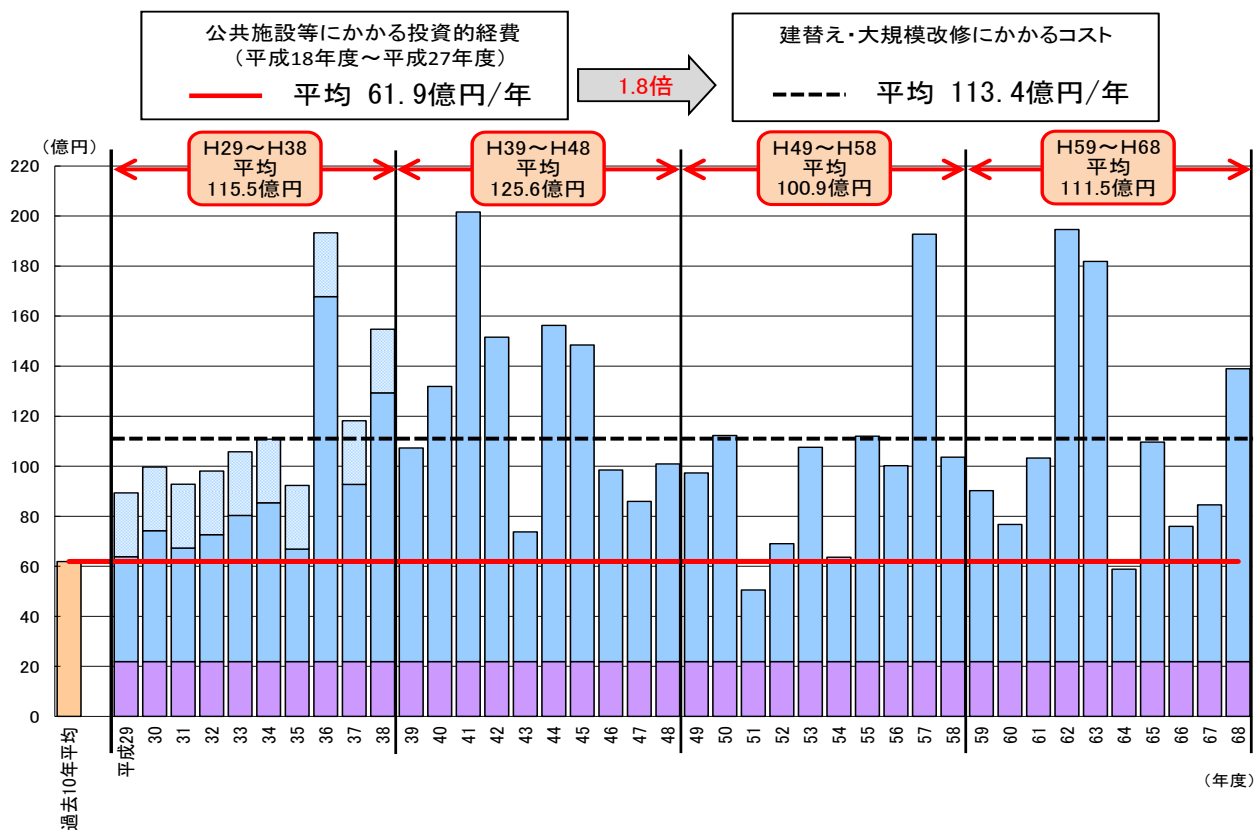
佐世保市役所 財務部施設再編整備推進室

背景

背景1 公共施設の老朽化

▶ 高度成長期に集中して建設した施設が、これから一斉に老朽化

- 今ある施設を全てを建替えしながら維持していくためには、近年に要している公共施設等にかかる投資的経費の1.8倍（51.5億円/年の追加）が必要になります。



▶ 建て替えや改修等の対応が追いつきません。

- 市全体の公共施設は、**3,000を超える建物**があります。
- 今後、老朽化した施設が急速に増えていくことから、**対応が追いつかなくなる**可能性があります。
- 対応が遅れると、外壁の一部が爆裂し落下するなど、**安全性や利用環境の確保が難しく**なります。

劣化現象の例



外壁で鉄筋の腐食により躯体が爆裂し、コンクリート片が落下している。



屋上の防水層が劣化し、ひび割れや剥離しているため、機能しておらず、雨漏りする。



屋外受電盤の全体に発錆、腐食がみられ、漏電等による火災の恐れがある。

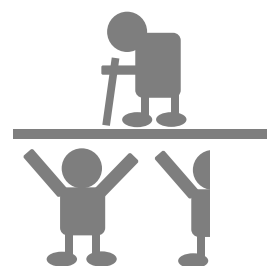
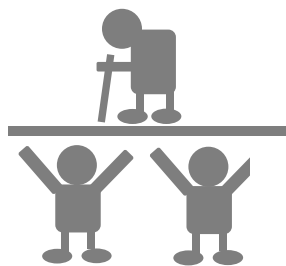
背景

背景2 人口減少

- H27: 25万1千人 ⇒ H47: 20万6千人
- 20年間で18%減少 (1年で約2千人以上減少)

背景3 少子高齢化

- 高齢者の割合 H27: 29.6% ⇒ H47: 35.5%
- H27 高齢者1人: 生産年齢1.9人 ⇒ H47 高齢者1人: 生産年齢1.5人



背景からもたらされる課題

財政運営の圧迫

- 生産年齢人口の減少により市税などの収入が減少
- 社会保障費のさらなる増加

市民ニーズの変化

- 建設当時からの情勢変化
- 遊休施設や遊休スペースの増加

解決に向けて

公共施設の**選択と集中**（取捨選択）しなければ、

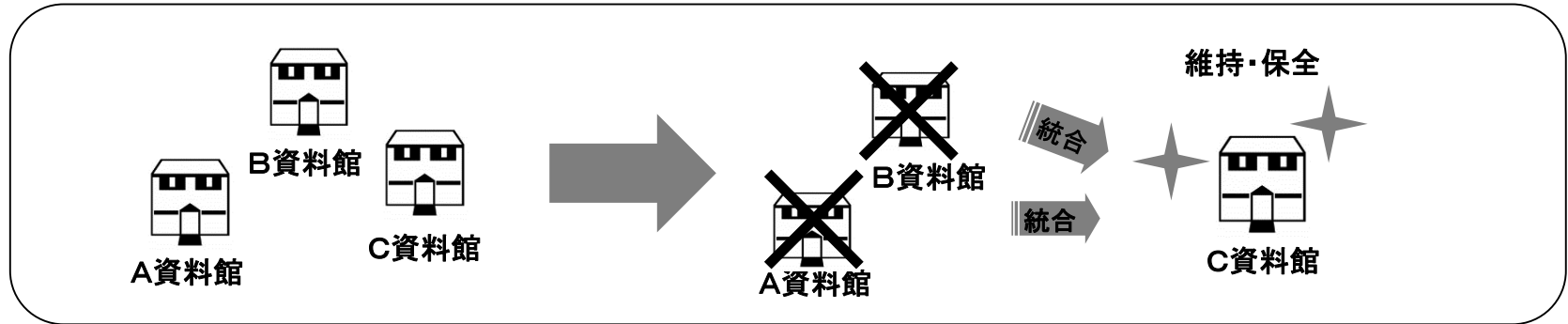
安全に使用できる状態を保つことができません

対応策

再編 ～15%以上削減～

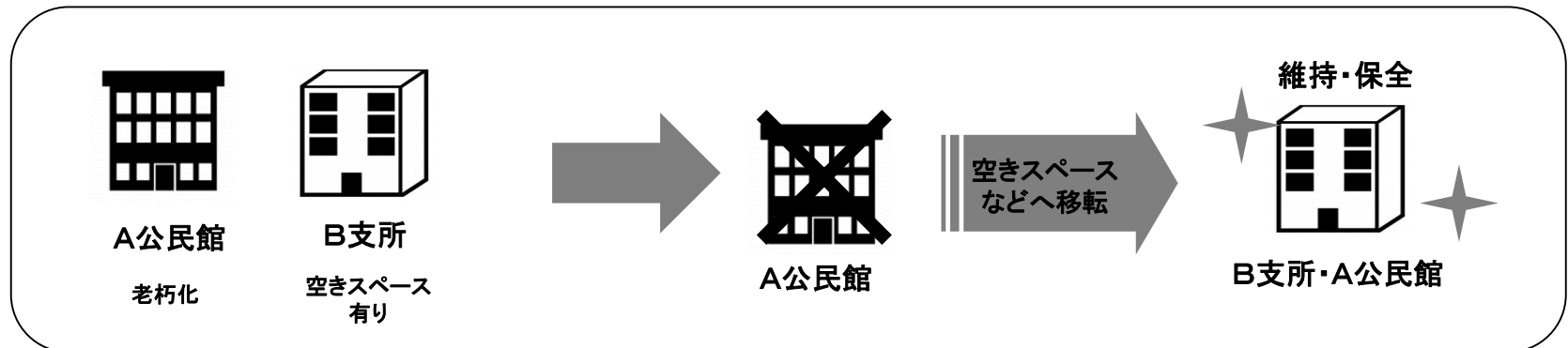
➤同じような施設を1ヶ所にまとめる『集約化』

＜例＞



➤異なる目的の施設をまとめる『複合化』

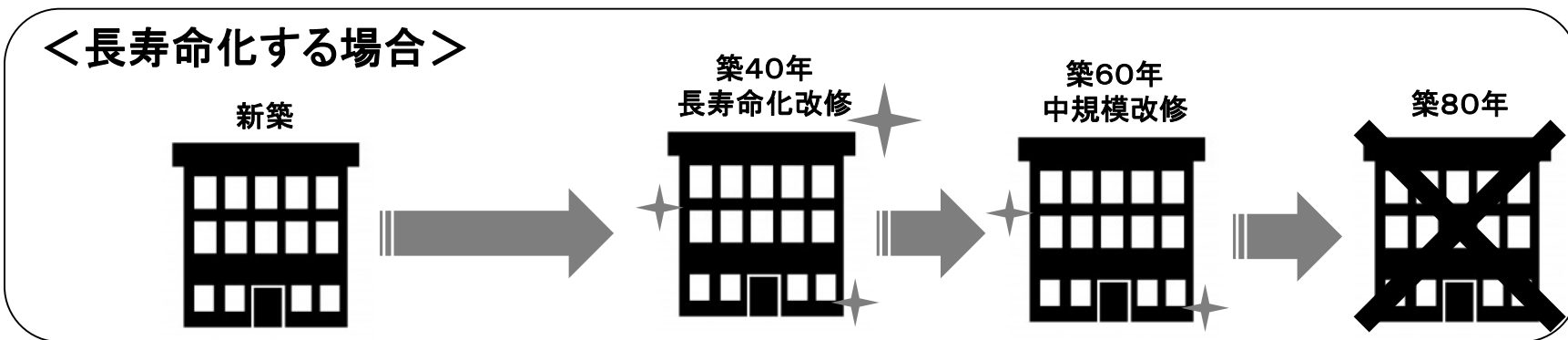
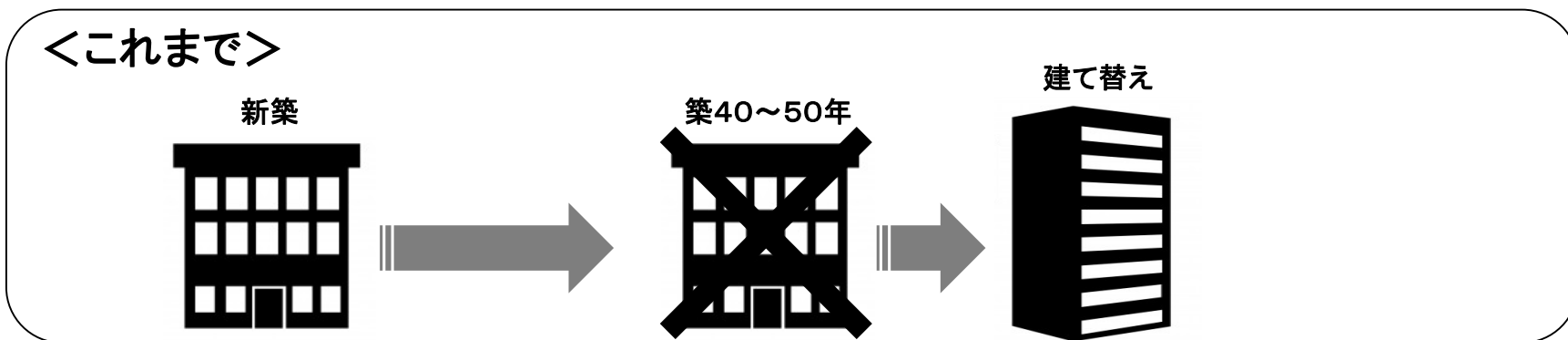
＜例＞



対応策

長寿命化 ～80年以上使用を目標～

➤ 今ある施設を長期的に使用していく『長寿命化』



長寿命化改修の事例(神奈川県相模原市)

- 間仕切り壁の撤去や新設により、施設利用者の要望に応じたレイアウトへ変更
- 増築及び別棟増築により施設機能を拡充
- トイレやエレベーター、調理台、点字ブロック設置などバリアフリー化

内装や設備を一新



スペースが足りない場合は敷地内へ増築



調理台等の設備は新品へ交換



トイレを一新するとともにバリアフリー化



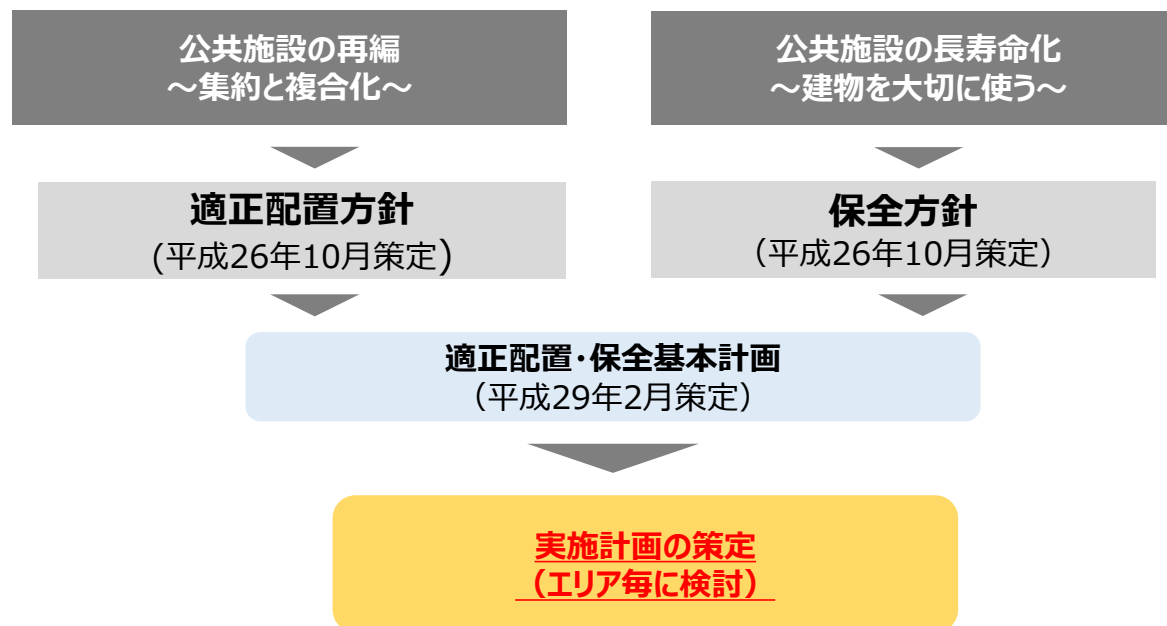
外観(改修前)



外観(改修後)



施設再編に関するこれまでの取り組み

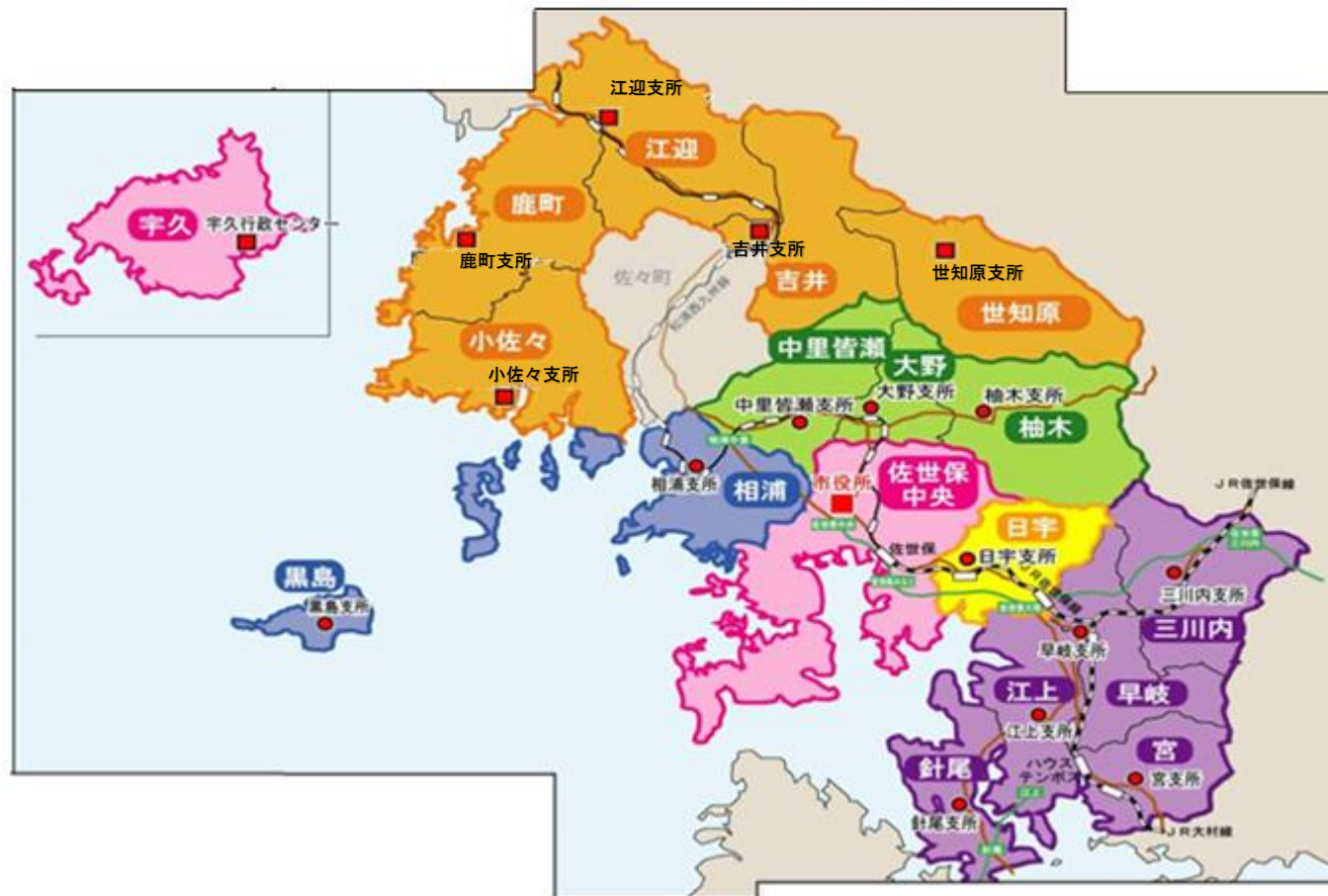


- 平成29年2月、公共施設あり方について、今後、具体的な施設の検討を行うため、適正配置や長寿命化に向けた基本ルールである「公共施設適正配置・保全年基本計画」を策定しました。
- 現在、この基本計画に基づき、**具体的な施設の方向性を定める実施計画**について、市民の皆様や利用者のご意見を伺いながら、策定を進めています。

実施計画の策定

7つのエリアに分けて検討

エリア名	構成する地域
佐世保中央	佐世保中央
相浦	相浦、黒島
中北部	大野、中里皆瀬、柚木
日宇	日宇
東部	早岐、江上、針尾、三川内、宮
北部	吉井、世知原、小佐々、江迎、鹿町
宇久	宇久



実施計画の策定

市民対話による進め方(北部エリア)

ワークショップを開催

- 行政が一方的に決めない
- エリア単位だと検討の幅が広がる
- 案を決めていく過程を公開



地域との意見交換

- ワークショップのみで全てを決めるものではない
- ワークショップでの検討に加え、地域との意見交換会やオープンハウスの実施
- もたらされた意見については実施計画案の検討に反映

北部エリアの概要

・北部エリアは平成17年以降合併した、吉井地域、世知原地域、小佐々地域、江迎地域及び鹿町地域の5地域(宇久地域を除く)を対象とし、人口が約2.5万人、面積が約150km²、人口密度が163人/km²です。人口密度は、市平均(1,097人/km²)を大きく下回っています。

・各地域は、それぞれが一つの自治体であったため、それぞれの地域で旧町役場庁舎及び公民館、小中学校が設置されています。1人あたりの保有面積は10.5m²(旧市のみ4.1m²)となっています。

公共施設保有量と人口の関係(全エリア記載)

エリア名	構成する地域	人口 (人)	面積 (km ²)	人口 密度 (人/km ²)	保有延床 面積 (m ²)	1人あたりの 保有延床面 積 (m ² /人)	将来人口 予測 (H42)	人口 増減率
佐世保中央	佐世保中央	84,825	47.78	1,775	471,305.75	5.6	70,233	-17.2%
相浦	相浦、黒島	28,649	29.43	973	135,942.20	4.7	26,107	-8.9%
中北部	大野、中里皆瀬、柚木	34,936	59.83	583	152,950.70	4.4	32,103	-8.1%
日宇	日宇	27,402	16.85	1,626	65,305.16	2.4	25,010	-8.7%
東部	早岐、江上、針尾、三川内、宮	50,841	96.18	528	174,029.69	3.4	48,398	-4.8%
北部	北部全体	24,695	151.42	163	259,824.90	10.5	18,769	-24.0%
	吉井	5,374	27.09	198	53,785.27	10.0	4,399	-18.1%
	世知原	3,397	32.02	106	37,214.57	11.0	2,362	-30.5%
	小佐々	6,081	30.00	202	53,939.49	8.9	4,493	-26.1%
	江迎	5,344	32.07	163	65,198.22	12.2	4,343	-18.7%
	鹿町	4,499	30.24	148	49,687.35	11.0	3,172	-29.5%
宇久	宇久	2,110	26.40	80	38,638.82	18.3	1,174	-55.6%

平成28年4月1日現在

北部エリアの概要

○地域別人口の将来推計

・14歳以下の割合が減少するとともに65歳以上の割合が増加していくことで、公共施設に対するニーズが変わっていくと考えられます。

年齢区分	吉井				世知原				小佐々			
	H27		H52		H27		H52		H27		H52	
	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合
0～14歳	761	14.0%	388	10.7%	403	11.7%	134	7.9%	876	14.2%	374	10.9%
15～64歳	3,112	57.4%	1,687	46.4%	1,639	47.7%	674	39.8%	3,449	56.1%	1,575	45.8%
65～74歳	751	13.9%	660	18.2%	680	19.8%	303	17.9%	893	14.5%	557	16.2%
75歳以上	793	14.6%	899	24.7%	711	20.7%	582	34.4%	933	15.2%	931	27.1%
総計	5,417	100.0%	3,634	100.0%	3,433	100.0%	1,693	100.0%	6,151	100.0%	3,437	100.0%

年齢区分	江迎				鹿町			
	H27		H52		H27		H52	
	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合
0～14歳	743	13.7%	441	12.2%	530	11.7%	192	8.3%
15～64歳	2,887	53.3%	1,705	47.2%	2,412	53.1%	972	41.8%
65～74歳	784	14.5%	545	15.1%	766	16.8%	392	16.9%
75歳以上	1,007	18.6%	919	25.5%	838	18.4%	767	33.0%
総計	5,421	100.0%	3,610	100.0%	4,546	100.0%	2,323	100.0%

北部エリアの概要

○学校別児童生徒数の将来推計

- ・地域別将来人口推計で算出された、平成27～平成52における年少人口増減率を各学校ごとの児童数・生徒数に乗じて算出された、将来児童・生徒数は下記のとおりです。
- ・すべての学校、学年において、単学級が発生することが想定されます。

【小学校】

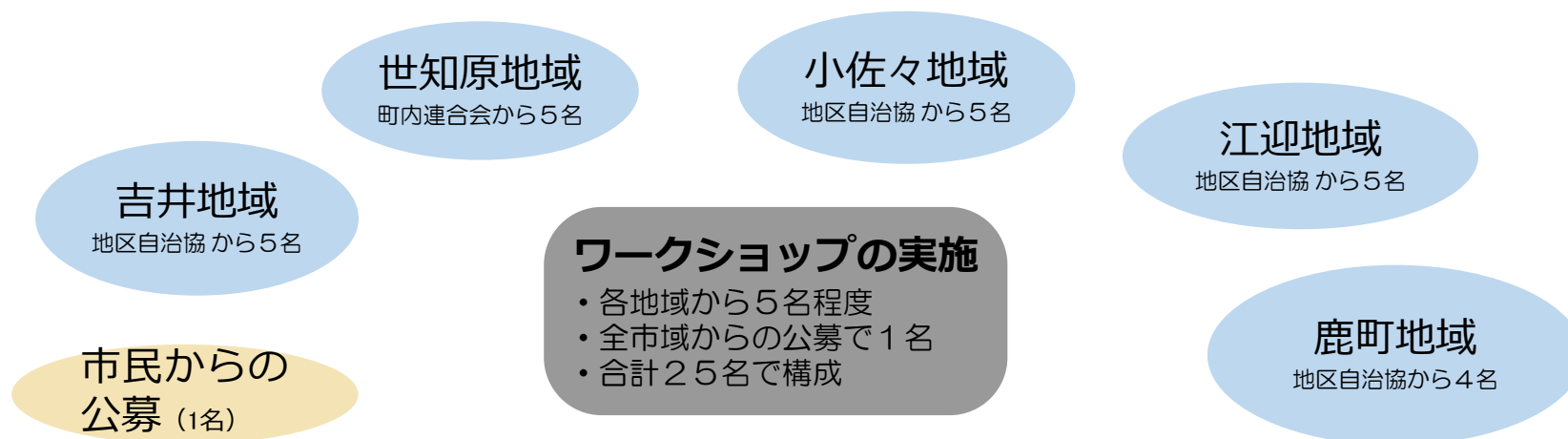
学校	児童数の推計		
	H27年度	推計 年少人口 増減率 (%)	H52年度
吉井南	225	-49.0	115
吉井北	102	-49.0	52
世知原	200	-66.7	67
小佐々	221	-57.3	94
楠栖	157	-57.3	67
江迎	191	-40.6	113
猪調	115	-40.6	68
鹿町	102	-63.8	37
歌浦	111	-63.8	40
総数	1,424	-54.1	654

【中学校】

学校	生徒数の推計		
	H27年度	推計 年少人口 増減率 (%)	H52年度
吉井	173	-49.0	88
世知原	103	-66.7	34
小佐々	168	-57.3	72
江迎	145	-40.6	86
鹿町	120	-63.8	43
総数	709	-54.3	324

北部エリアワークショップの開催

平成29年7月から11月にかけて江迎地区文化会館インフォニタスにて開催（全4回）。



各回の議題

第1回（7月）

【議題】

- 進め方の確認
- エリアの公共施設の現状と、将来において懸念される事項

第2回（8月）

【議題】

- 公共施設の利用状況確認
- 北部エリアの公共施設の役割・配置・必要機能の議論

第3回（9月）・第4回（11月）

【議題】

- 北部エリアの再編案の検討
用途別（スポーツ施設、公民館・・・）に方針（集約、複合化、改修・・・）を検討
- 再編案の評価、再検討

ワークショップ(全4回)での主なご意見

適正配置の是非

- ・施設の量ではなく、使われ方や重要度など、質を重視する必要性があると感じている。一方で、公共施設がなくなることは、地域にとって影響が大きい。単純に用途や行政区で絞ることはせず、地域住民の意見を聞いて進めるべきである。将来的な構想、次世代の利用可能性も考慮するべきである。統合するにしても廃止するにしても、画一的な評価によって行うべきではない。また、何を評価基準として絞っていくのかについても、このワークショップを通して議論していく必要があるだろう。
- ・老朽化した施設などの維持は難しいかもしれないが、公共施設は地域のにぎわい、活性化の核であり、避難所としての機能も持っており、地域にとって重要な存在なので慎重に考えてほしい。
- ・地区ごとに施設を複合化することで、利便性が高まる可能性がある。中心的な施設や集約する施設は、機能（避難所、バリアフリー、アクセス性）を高めてほしい。

公民館・支所に関して

- ・老朽化している施設は他の施設との統合や建替をすることで、効率的に運営できる可能性がある。ただし、重要な施設なので利用者にとっての使いやすさ（利便性、機能性）を踏まえて検討するべきだ。
- ・世知原町、吉井町では、既に公民館・支所の集約化が進んでおり、リフォームして他の機能を入れる、新しく建替える等が行われており、使い勝手が良くなる面もあるのではと期待されている。

スポーツ施設に関して

- ・各地域に1つずつある施設等、一部の施設には集約の必要性を感じている。しかし、地域によって、他地域の施設の利用について習慣が異なり、減らして欲しくないという思いもある。利用状況等のデータと、住民の習慣、交通の便を踏まえて考えることが重要だ。
- ・防災拠点としてのあり方について検討していくことが必要だろう。また、民間に維持管理・運営を委託すれば、良い効果を生む場合もあると考えられる。
- ・広域的な施設として機能を補完していく場合は、利用率がさらに高まると想定されるため、その施設の地域の住民が優先的に使える工夫を行ってほしい。
- ・学校のプールを活用することができれば、将来的にプールの施設は必要ない。ただし、御橋のプール等、消防の水にも利用する場合はその機能を維持したほうが良いだろう。

学校施設について

- ・児童数が減っていくので将来的には検討する必要があるが、学校は地域にとっても重要な施設なので慎重に議論するべきだ。統廃合する場合は、旧町に捉われない広いエリアで、効率的な設置をすることも必要。
- ・授業や部活動に制限がかからないように、統合を進めていけば良いと思う。その際には同時に学校までのアクセス面をどうするのか十分に対策を練った上で進めてほしい。
- ・給食センターについては、各旧町にあるものを中心部に集約してそこから配送してはどうか。距離的や配送時間を考慮して、子ども達が暖かい給食を食べられる範囲で集約すべきだろう。
- ・学校の施設（体育館など）を地域住民に利用しやすく開放すれば、地域活動の場を広げることができる。

インフィニタスについて

- ・場所として便利であり、音響設備も良いため、利用率の向上に努めるべきだ。公民館の付属施設という位置づけを改め様々な取組みができるようにすることは良いと思う。佐世保市のアルカスのように、広域的に利用される施設になれば、地域全体が活性化する。

その他全般

- ・水害をはじめとした災害対策を重視して、公共施設の配置を考えるべきだ。避難場所としての機能（備蓄品、ヘリポート）の整備も考えてほしい。
- ・利用頻度が少ない施設は、維持管理に費用をかけるよりも、土地や施設を売却する等することで、空間や資金をうまく活用できるのではないかな。